

パイナップルの優良系統N67-10について

池宮秀和・小那覇安優・仲宗根福則 (沖縄県農業試験場)

IKEMIYA, H., A. ONAHA and H. NAKASONE : Excellent Strain N67-10 in Pineapple

パイナップルは繁殖体によって無性的に増殖できるから交雑育種によって直接F₁が利用でき新品種育成上極めて優れて、従来ハワイ、台湾等において組織的かつ大規模に交雑育種が試みられてきたにもかかわらず、Smooth Cayenneで総称される従来の栽培品種以上の優良ものが育成されたという報告はない。

さらに、パイナップルが沖縄で営利的作物として栽培されるようになってから日が浅く、その間外国からの種苗を導入して栽培してきたが、沖縄で育成された品種、系統がなく、またこれら導入種苗は混系をなしているのが、実状である。このようなことから、ハワイ導入種苗を母本選抜にして栄養系分離育種法により優良系統N67-10を選抜したので、ここにその概要を報告する。

1. 育成経過

1958～1959年に琉球政府経済局がハワイからパイナップル種苗を導入し、一般農家に配布した。その一般農家圃場から409個体を選抜収集し、当試験場に植付けて1967年に第一次選抜試験により20個体を選抜しN67-1からN67-20までの系統番号を付し葉ざし増殖をして分生個体を作り、1969年4月に植付けた。さらに、1971年の着果時に第二次選抜試験によって15個体選抜した。その後は栄養繁殖による冠芽苗、えい芽苗、吸芽苗を系統比較試験、生産力検定試験、奨励品種決定試験等に供試してきた。その結果N67-10が成績優良と認められたので、さらに沖縄本島北部地域および八重山地域における適否性を検討した。

2. 特性概要

1) N67-10の形態的特性はハワイ導入系に類似するが、草丈はハワイ導入系、三菱系、TH-56より高く、莖葉重は三菱系、ハワイ導入系より小さい。えい芽発生数は三菱系、ハワイ導入系に比較して少ない。

N67-10は果長、果径および果肉幅、果芯径が大きく小果数も多い。果実重も大きく10a当たりの1～3回までの夏実、冬実の合計収量ではハワイ導入系を100とすると117で17%の増収であった。果汁Brixおよび果汁酸度等の果

実品質ではハワイ導入系と同程度であった。

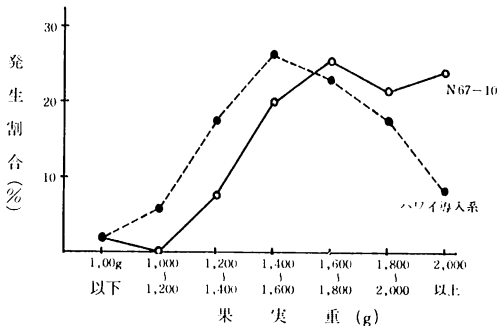
2) N67-10の生態的特性はハワイ導入系に極めて類似し出蕾期、収穫期はTH-56より遅く、三菱系よりやや早い中性種に属している。

病害抵抗性については、萎凋病抵抗性および果実病害である花樟病抵抗性に対しては中程度、生理障害の裂果抵抗性に対しては強であった。

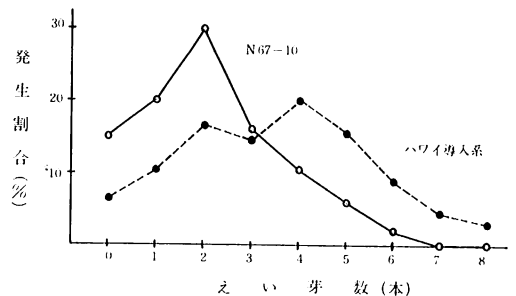
第1表 N67-10の主要特性

形質	N67-10	ハワイ	三菱	TH-56
草丈 (cm)	118.2	113.3	109.2	103.9
莖葉重 (g)	4,113	4,267	4,678	—
生葉数 (枚)	58	58	55	63
出蕾期 (月日)	3月26日	3月27日	3月21日	3月13日
育開花期 (月日)	5月15日	5月16日	5月12日	—
収穫期 (月日)	9月12日	9月12日	9月10日	9月2日
冠芽発生数(本)	0.96	1.00	1.04	0.92
えい芽発生数(本)	1.23	3.01	13.62	0.34
性吸芽発生数(本)	1.35	1.11	0.24	2.46
いぼ発生数(個)	0.22	0.03	2.22	0.10
いぼ発生数(本)	0.03	0	2.31	0.003
果実重 (g)	1,626	1,421	850	1,161
果実比重	0.998	1.033	1.006	—
果長 (cm)	18.7	17.1	14.2	15.2
実果径 (cm)	12.5	12.0	10.3	11.7
小果数(個)	115	101	92	91
特果肉幅 (cm)	4.0	3.8	2.9	—
果芯径 (cm)	2.6	2.5	2.2	2.0
性果汁Brix (度)	14.1	14.3	14.4	12.9
果汁酸度 (%)	0.653	0.701	0.819	0.511
収量 (kg/10a)	13,583	11,602	—	—
萎凋病	中	中	中	中
花樟病	中	中	中	弱
裂果	強	強	強	強

注) 1972～1982年までの成績



第1図 N67-10の果実重分布 (1981年1回夏実)



第2図 N67-10のえい芽発生数別分布 (1975年1回夏実)